

地域別構想

地域の特性に応じた4つのゾーン毎に将来像を描き、地域づくりを進めます。

いろいろな
たまちゃんが
いるよ



自然環境ゾーン

安達太良山の豊かな自然を守り育てる地域

- ・山林の適切な保全と管理
- ・東西観光・地域交流軸の形成
- ・遊休施設等の活用
- ・景観の保全 など

村内の田園と安達太良山



中山間ゾーン

多様な自然とともに暮らすゆとりある地域

- ・耕作放棄地対策と農業就業者の確保
- ・デマンドタクシーを中心とした新たな公共交通体系への再編
- ・水道水源の確保
- ・エネルギーの有効活用 など

ふれあい村民の森



田園・都市集積ゾーン

田園に囲まれた安心・快適な地域

- ・農用地の適切な保全と管理
- ・道路の計画整備
- ・村民交流施設の建設
- ・眺望スポットの整備 など

田園に囲まれた住宅

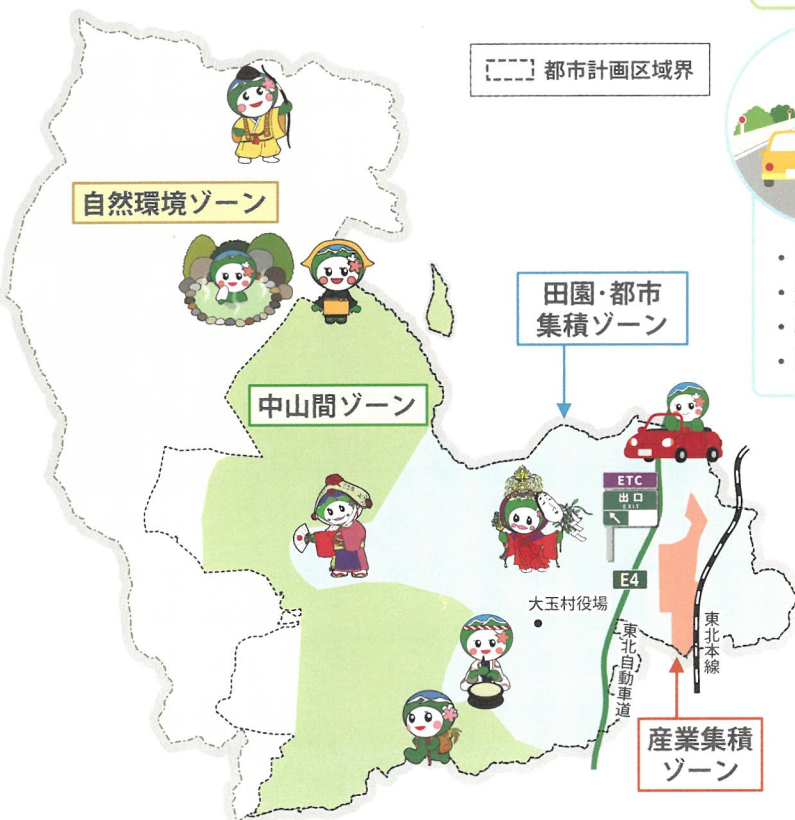


産業集積ゾーン

安達太良山を望む地域産業が息づく地域

- ・大玉村の玄関口の形成
- ・工業集積拠点、地域振興拠点の形成
- ・子どもが楽しめる場づくり
- ・道路景観への配慮 など

ふれあい広場からの景観



将来像実現に向けた方策

▶産業集積ゾーンへの企業進出の誘導

大玉村でのにぎわい拠点と企業立地により働く場を創出します。

▶公共施設の更新及び公園等の整備

需要変化に応じた公共施設等の最適化と住民ニーズに対応した施設整備・更新等を図ります。

▶スマートICの整備に向けた検討

日常生活の利便性の向上と企業誘致、交流人口の増大を図るため、高速アクセス性の確保を目指します。

▶高速道路バスストップの再整備

近隣及び県外都市圏へのアクセスの確保を行い、公共交通の利便性を高めます。

▶地域振興施設の整備

あだたらの里直売所周辺を整備し、新たな地域振興・観光拠点の形成を図ります。

大玉村都市計画マスタープラン
概要版
令和6年8月

発行／大玉村
編集／大玉村産業建設部建設課
〒969-1392 福島県安達郡大玉村玉井字星内70番地
TEL (0243) 48-3131 (代表)

本編はこちら



自然豊かな「大いなる田舎」に築く『田園都市』おおたま

大玉村都市計画マスタープラン 概要版

令和6年8月改定

マスタープランとは？

策定目的 都市計画マスタープランは、むらづくりの方向性を示した計画（大玉村総合振興計画）等に即し、大玉村の将来像を具体的に明示したものです。実現するための整備の方法や、時期を明らかにするとともに、土地の利用や各種事業の実施、変更の指針とするものです。

目標年次 令和24年（中間目標年次 令和14年）

改定経緯

- 令和5年3月 当初計画策定から20年あまりが経過し、時代の流れやまちづくりを取り巻く課題の変化に対応するため、新たなまちづくりの方針を示す改定
- 令和6年8月 スマートインターチェンジを中心としたむらづくりを具体化し、村全体の魅力を高めていくことを目的とした改定

住民の意識

計画の改定にあたって、アンケートやワークショップを実施し、住民のみなさまの意識・意向を確認しました。

村民アンケート

中学生を含む住民の方へむらづくりに関するアンケートを行い、定住意識が高いことや、美しい景観の保全、魅力的な都市施設が求められていることが分かりました。

村民ワークショップ

ワークショップでは、大玉村の問題、課題や大切にしたい資源を出し合い、課題実現や資源を守るために重要と考えられる取り組み内容や協力体制について、活発な話し合いが行われました。

村民ワークショップ



本村を取り巻く主要課題

上記の住民意識から本村の主要な課題を次のように整理しました。

人口の維持・増加

移住者を受け入れる住環境の確保 など

目標の柱

3 5 7 8

「美しい農村」の維持と生活の利便性を確保する土地利用

企業誘致等の就労の場、商業施設の確保 など

目標の柱

1 3 5 6 7

減災対策、災害発生時の機能確保

減災対策の推進、災害発生時の機能確保

目標の柱

5 6 7

自然環境の保全と活用

自然環境を活かした観光の推進 など

目標の柱

4 5 7

福祉の充実

子育てしやすいむらづくり など

目標の柱

5 6 7 8

産業、観光、通勤のアクセス性向上

高速道路、幹線道路へのアクセス性向上 など

目標の柱

1 3 4 5 7



大玉村の20年後の姿と都市づくりの基本理念

大玉村の現況と課題を踏まえて、20年後の大玉村の姿と実現していくための基本理念を設定しました。

大玉村の20年後の姿（将来像）

自然豊かな「大いなる田舎」に築く『田園都市』おおたま

大玉村には、悠久の時を経て伝えられた豊かな自然、広大な農地からなる田園風景、伝統文化等の「田舎」としての資源が多く残されています。これらの資源を引き続き後世に伝え、20年後も大いなる「田舎」の豊かさを継承します。

また、全国的に人口減少、少子高齢化が進行するなかでも、人口が増加傾向にある大玉村は、この土地に住むことの喜びや誇りを実感できるむらづくりを行うことで、引き続き将来にわたって定住・移住を促進し活力を維持しながら、地域の魅力の進化・深化を図ります。

そして、隣接する本宮市、二本松市、中核市の郡山市や福島市を中心とする圏域内の相互関係の中で、「大いなる田舎」として豊かな自然やコミュニティを有し、必要な都市機能や暮らし続けるための産業の維持・確保といった「都市」としての快適性や利便性を備えた、コンパクトで“ちょうどいい”『田園都市』を目指します。

※「進化・深化」と「ちょうどいい」は、ワークショップで挙げられたキーワード。

都市づくりの基本理念

暮らしと自然の豊かさを守り、創造・発展していくむらづくり

10年後・20年後の大玉村の自立を考えると、住民の幸せな暮らしを守るための基盤となる産業の振興・発展は何よりも不可欠です。一方で、振興や発展を目指すことで、安達太良に抱かれ豊かな自然環境の恩恵を受けながら暮らしてきた、私たちの生活が損なわれてはなりません。

このことから、一定の産業成長を遂げながらも自然との調和を図り、住民がいつまでも暮らしと自然の「豊かさ」を実感し安心して暮らし続けることができるよう、創造・発展していくむらづくりを進めます。

なお、デジタル技術による社会の変革を捉え、これらの技術を様々な社会的課題の解決に最大限活用することで、暮らしの質や価値を高め、将来にわたり豊かで持続可能な暮らしを守ります。

目標の柱（8つの柱）

大玉村の将来像を実現するための都市づくりの目標として、主要課題に基づく8つの柱を設定しました。

（詳細については、HP掲載の本編p.65～67をご確認下さい。）

目標の柱 1 地域経済が活性化するむら

安達太良山を中心とした自然を守り
景観を創造するむら

目標の柱 3 定住・移住を促進するむら

目標の柱 4 広域的な交流を促進するむら

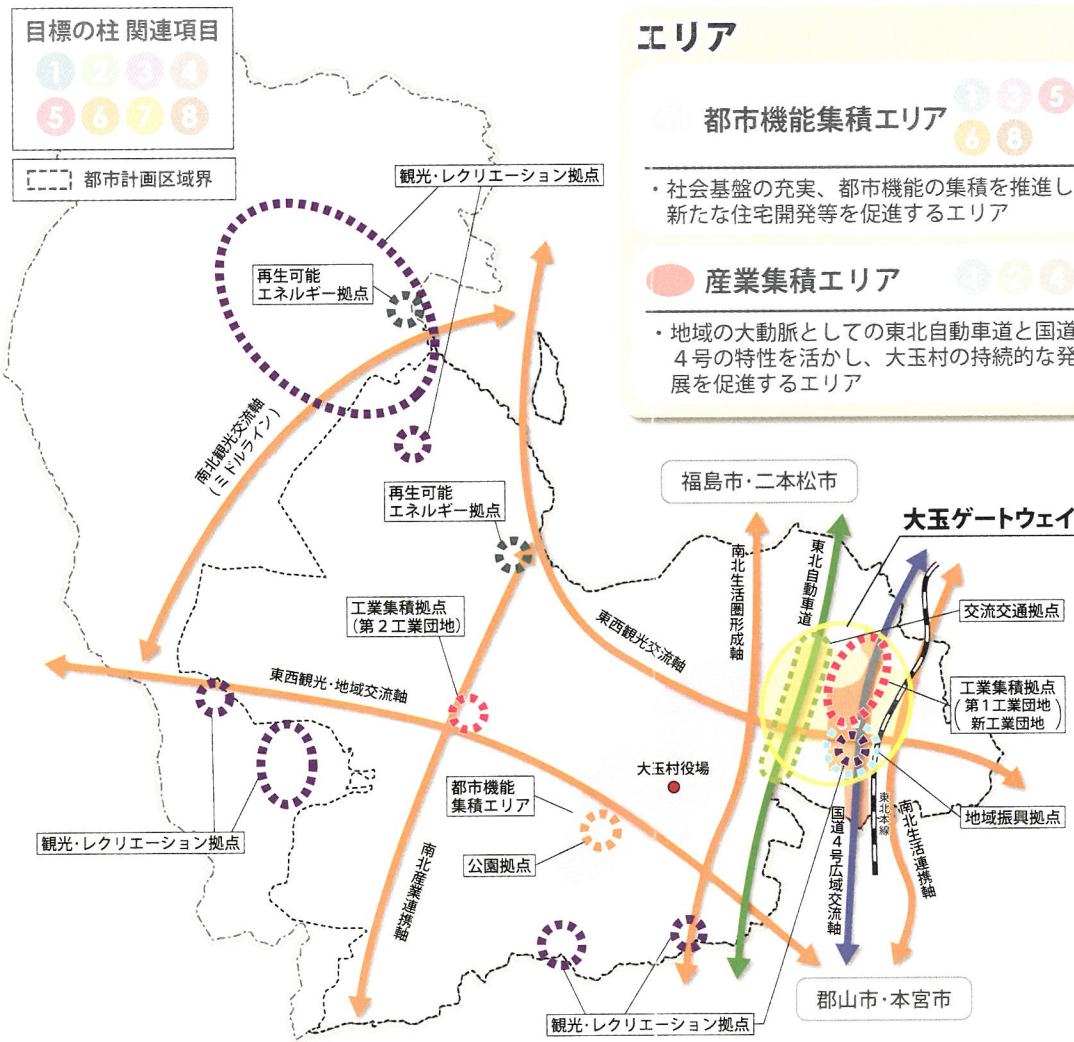
目標の柱 5 多世代が暮らしやすいむら

目標の柱 6 安全・安心に暮らせるむら

目標の柱 7 持続可能な社会を推進するむら

目標の柱 8 地域住民の力を活かすことができるむら

将来都市構造



20年後の田園都市イメージ



拠点

観光・レクリエーション拠点

- ・守るべき自然との調和を図りながら、既存施設の有効活用並びに、新たな施設整備を促進する地区

工業集積拠点

- ・第1工業団地の機能向上を図る地区及び新たな工業団地の造成を推進する地区
- ・第2工業団地の機能向上を図る地区

地域振興拠点

- ・地域振興施設の整備を推進する地区

交流交通拠点

- ・スマートICの整備や高速道路バスストップの再整備を検討する地区

公園拠点

- ・水辺空間を活かし、花と緑に囲まれた憩いの場を形成する地区

再生可能エネルギー拠点

- ・再生可能エネルギーの推進と、学習の場としてのエネルギーパークの整備を検討する地区

大玉ゲートウェイについて

大玉ゲートウェイとは、国道4号沿道の地域振興拠点と工業集積拠点、東北自動車道に接続するスマートIC等からなる交流交通拠点、これら3拠点を一体としたエリア。スマートICを中心とする交流交通拠点を軸に、周辺には工業集積拠点と地域振興拠点を配置し、拠点間の連携によって人・モノの交流（観光振興、企業立地、物流効率化など）に好循環を生む構想。大玉村の玄関口として、スマートICを中心としたまちづくりを一体的にエリア全体で進めることにより、村全体の魅力を高めていく。

